

自然の彩り、雅な名前。「和の色」を愛でる。



暑さ寒さも彼岸までという言葉の通り、
長かった夏もようやく出口が見え、
日ごとに涼しさを感じるようになってきました。

風、雲、赤とんぼや虫の声、コスモスや彼岸花、
そんな自然の風物に秋を感じる方も多いことでしょう。

万葉の昔から、日本人は四季に移ろう自然の中に美を見出し、
豊かな感性で愛でてきました。

絵画や詩歌といった芸術はもちろん、
布や器、建具など日常の品々にも
そんな日本独自の美意識が息づいています。

象徴的なのは、「色」。

和の色=日本の伝統色は
季節の彩りになぞらえたやさしい色合いで、名前も風雅です。

現代の私たちには思いもよらないほど
古の日本人は敏感に自然の色を感じ、心惹かれ、
その彩りを暮らしの中に表現しようとしたのでしょう。

伝統的な和紙を糸にすることから始まったキュアテックスは、自然を愛し、和の心や文化を慈しんできました。

和の色に対する愛着や賛美を込めたアイテムも定番アイテムとして販売しています。

それが、「あぶらとりハンカチ」。
和の色のバリエーションを揃え、
伝統を感じる色名を充てています。

たとえば「長春」というのは、灰色をおびた薄紅色。
平安時代に中国から渡来した「庚申薔薇」の
漢名「長春花」の花色を表現した色名です。

緑がかった淡い藍色は、「薄浅葱」。
「浅葱」は平安時代の文献にもその名が見られる青緑色で、
若い葱（ネギ）という意味の名前です。
「薄浅葱」は涼しげで爽やか、
現代でも和装の人気色となっています。

ほかにも「藤色」「苺色」など、
自然をモチーフにしたやさしく温かみのある色を揃え、
ずっと大切にしています。

ハンカチという身近なアイテムにも
ちょっとした心のゆとりを。
日本の美の心に触れ、親しんでいただければ幸いです。